

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	神奈川西部郵便処理施設(仮称)新築工事	階数	地上5F
建設地	海老名市中野三丁目651番地外	構造	RC造
用途地域	なし	平均居住人員	190 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,640 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2017年8月 予定	評価の実施日	2017年7月10日
敷地面積	42,290 m ²	作成者	株式会社日建設計
建築面積	14,415 m ²	確認日	2017年7月10日
延床面積	42,848 m ²	確認者	日本郵政株式会社一級建築士事務所

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 69%
③上記+②以外の 69%
④上記+ 69%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 2
LR1 エネルギー: 1
LR2 資源・マテリアル: 2
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4

3 設計上の配慮事項		その他
総合 合理的な建築資材数量、適正な環境計画でミニマムな設計とし、イニシャル、ランニングでの資源利用の無駄をなくす。 【Q1/4.3.2】喫煙場所は5階食堂北側バルコニーを限定利用として設計した。 【Q2/1.2.2】リフレッシュペーシスは各階休息室・休憩室及び休憩コーナーとして設計した。		
Q1 室内環境 大空間の外壁は断熱鋼板で経済的に必要な性能を確保し、職員配置エリアに重点的な空調を行うことで効率的なH4H+利用とするほか、夏期26℃50%冬期18℃45%を満足する空調機器を設置して、良好な室内温度環境を目指す計画とした。また妻側全長72mの郵便事務室は両側窓面からの自然光を取り入れ、かつLED器具を採用して省エネに努めた。	Q2 サービス性能 公共の郵便施設として大地震時にも備え免震構造とし、日進歩する輸送現場に対応するため、構造スパン・階高は、将来性を考慮した寸法とする。また、設備機械置場も更新・増設スペースを確保した。また24時間稼働施設であるため、建物利用者である職員の休息空間も適切に計画した。	Q3 室外環境(敷地内) 県、市の条例で定められた緑化基準を満たしながら地域の植生を取り入れた緑化計画としており、開発行為において提供された公共緑地と統一した計画としている。また、またる建築設備をコージェネレーション発電機、吸収式冷凍機、ボイラー等の燃焼設備に伴う高温排熱を発生しない構成とした。
LR1 エネルギー 外壁を断熱鋼板とし、外装は採光が有効利用できる範囲にしぼることで、熱負荷を抑制するとともに、照明はLED器具を採用した。	LR2 資源・マテリアル 敷地内の緑地面積が大きいため、雨水利用を導入し、内装材においては床材などでリサイクル品の仕様を想定している。	LR3 敷地外環境 ほぼ正方形の敷地に対して、夏季卓越風方向(南北)に対して外壁見付面の小さくなるような配置を行っている。(容積率100%なので評価はないが)また開発行為にて求められている建物内雨水貯留容量に余裕(2倍)のある計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される